2027 カーボンニュートラル vol.22

環境省の地球温暖化対策関連補助事業に採択されました

海の豊かさを再生し 地球温暖化を食い止める ブルーカーボンの取り組み



宇島漁港

アカモク。日本各地の沿岸に自生する海藻。栄養が豊富で「海のスーパーフード」としても注目されている。

写真２枚とも、福岡県水産海洋技術センター提供

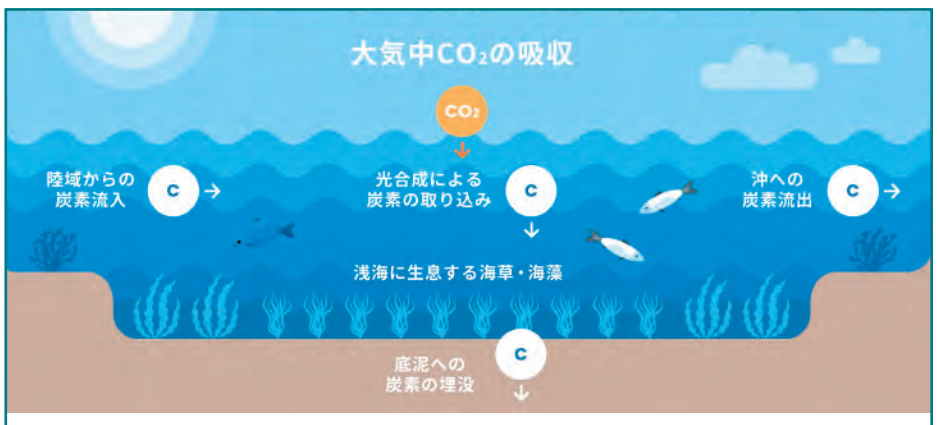
グリーンコープが取り組む「※1 2027カーボンニュートラル」では、CO_2排出削減だけでなく、※2ブルーカーボンをはじめとしたCO_2を吸収する取り組みも積極的に行っています。

その一つとして、福岡県の豊前（ぶぜん）海で、アカモクの増殖に取り組むことになりました。地元の豊築漁業協同組合や企業と連携して進めるこの取り組みは、環境省の「ブルーカーボン等の吸収源対策に係る大規模実証プロジェクトの立上げ等実施事業」に採択されました。

※1　2027年度までにグリーンコープが事業で排出するCO_2（Scope1：自社における実質排出と、Scope2：自社が購入・使用した電力、熱、蒸気などのエネルギー起源の間接排出）を実質ゼロにする取り組み。

※2
ブルーカーボン：沿岸や海洋の生態系が光合成によりCO_2を取り込み、その後海底や深海に貯留される炭素。

ブルーカーボンの仕組み



出典：環境省ＨＰ（ジャパンブルーエコノミー技術研究組合資料に基づき作成）

沿岸浅海域のマングローブ林、塩性湿地、海草海藻は、海洋面積のわずか〇.五％以下だが、海洋の堆積物中に毎年貯留される全炭素量の五十～七一％を貯留している。

引用文献：枝廣淳子著　「ブルーカーボンとは何か　温暖化を防ぐ『海の森』」

ブルーカーボン生態系の消失によって地球温暖化が加速

ブルーカーボンの主要な吸収源として、藻場（海草・海藻）や塩性湿地・干潟、マングローブ林があり、これらはブルーカーボン生態系と呼ばれています。ブルーカーボン生態系は、CO_2の吸収源として世界的に注目されている一方、最も消失の危機に陥っている生態系でもあります。世界的に藻場の再生が急務となっています。

グリーンコープが取り組みを行う豊前海でも、近年アカモク等の藻場の減少が進んでいます。藻場の減少は、水産資源や生態系へ悪影響を及ぼすだけでなく、CO_2の吸収・固定機能の喪失につながり、地球温暖化を加速させる要因の一つとされています。

地域と共に地球温暖化に立ち向かう

温暖化の影響で豊前海に大量発生したヒトデによる貝の食害や藻場荒れの問題解決に、豊築漁協や豊前市役所、地元企業などが連携して取り組んできました。

そのような地域との出会いから、グリーンコープが主体となり、豊前海でアカモク増殖の実証事業プロジェクトチームを立ち上げました。

未来に向けて持続可能な取り組みに

今回の実証事業では、３ヵ年計画で、豊前海の宇島（うのしま）漁港周辺の海洋で１ha分のアカモクの増殖を目指します。アカモクを深海に沈めてCO_2を長期的に貯留・固定します。これによって、0.1ｔのCO_2を吸収する計画です。一部は、収穫後商品化して、事業として継続できる仕組みをつくります。

まずは、アカモクの成熟期に合わせ、２０２７年２月～３月に最初のタネまきを実施し、定着状況の初期確認を行います。その結果を踏まえ、２０２７年度には本格的にタネまきを実施し、翌２０２８年度は実施エリアを拡大する予定です。

３ヵ年の実証データは、プロジェクトチームが分析・評価し、環境省に届け、国の温暖化対策に活かされる予定です。

また、実証の成果をモデルケースとして会員生協でも展開していきます。

グリーンコープは、地域と共に豊かな海を取り戻すとともに、地球温暖化に歯止めをかけ、未来の子どもたちにつないでいきたいと考えています。

カタログGREEN24・25号で呼びかけた
令和８年熊本地震 生産者・取引先支援募金
へのご協力ありがとうございました。

合計 6,342,527円

カンパ金は、被災した生産者・取引先へ届け、事業再建や建物・設備の復旧などに活用させていただきます。

共生の時代
みどりの地球を みどりのままで
2026 11月
■発行：一般社団法人グリーンコープ共同体理事会
■編集：共生の時代・編集部
■〒８１２－８５６１
福岡市博多区博多駅前一丁目５番１号
博多大博通ビルディング４階
ＴＥＬ０９２（４８１）７９２３
ＦＡＸ０９２（４８１）７８７６
https://www.greencoop.or.jp/

Contents

fromネグロス・クリスマスカンパ　2
2026年度 第22回 青少年ネグロス体験ツアー　3
2027カーボンニュートラル vol.23
2027カーボンニュートラル大集会　4･5
2026年度福祉拡大学習会
九州若者サポートネットワーク事業報告会　6･7
グリーンコープのイチオシ！東ティモールのコーヒー　8

グリーンコープ
グリーンコープは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

2026年9月の組合員数（9/20現在）
432,147人

互恵のためのアジア民衆基金
2026年9月に
組合員の利用によってたまったのは
515,409円
2009年4月からの累計は118,843,294円



ｆｒｏｍネグロス・クリスマスカンパへのご協力をお願いします

ネグロスやアジアの人々と連携し自立を支援しています



ｆｒｏｍ ネグロス・クリスマスカンパ

受付期間：カタログGREEN36号・37号
11月16日(月)～11月27日(金)

何口でも申し込めます

申込番号	一口	申込番号	一口
015	200円	016	500円

共同購入申込書の数量欄に、カンパする口数をご記入ください。

1980年代半ば、世界的な砂糖価格の大暴落によって、フィリピン・ネグロス島の子どもたちが飢餓状態に陥りました。そのことを知ったグリーンコープの組合員が緊急支援カンパに取り組み、その後、毎年クリスマスの時季に「ｆｒｏｍネグロス・クリスマスカンパ」として支援を続けています。現在、支援の輪は民衆交易でつながるアジア各地へと広がっています。

組合員から寄せられたカンパ金が活かされている様子を報告します。

私たちのカンパが、ネグロスやアジア各地で活かされています

フィリピン・ネグロス　APLA

台風対策のため果樹を植樹



気候危機の影響により、台風が巨大化しています。バナナは特に強風に弱いため、台風のたびに大きな被害が発生しています。台風対策の一つとして、バナナの圃場に風除けや治水の効果が期待できるバナナ以外の果樹も混植しています。

バナナ以外の果樹を栽培することにより、生産者の収入の多様化・安定化もめざしています。

フィリピン・ネグロス　ATPI

気候危機対策の研修や資金を支援



現在の極端な気候状況から民衆交易のバナナやサトウキビを守ることは、将来世代へ農地を引き継ぐためにも非常に重要です。生産者が持続可能な農業を続けられるように、気候危機に適応するための研修や資金を支援しています。

また、支援があることで、生産者とその家族は農作業に対する正当な対価を得ることができています。

東ティモール　APLA

地域の在来の種子を採取・記録・保全



多国籍企業による種子の独占が世界的に進み、農民が大企業から種子を購入しなければ農業を継続できない状況が広がっています。民衆交易のコーヒー産地である東ティモールも、例外ではありません。

環境保全活動や農民支援活動に取り組む現地のＮＧＯと協力し、農民学校に設置した種子バンクを拠点に、在来の種子の採取・記録・保全を進めています。

インドネシア　APLA

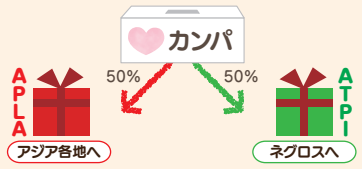
沿岸部にマングローブを植林



エコシュリンプの産地では、気候危機により大きな影響を受けており、エビの生産性が年々低下しています。

産地の一つ、スラウェシ島では、マングローブの植林と水産養殖を組み合わせた実験を始めています。マングローブは、暴風波、洪水などによる養殖池の浸食の軽減や、沿岸地域の保護に重要な役割を果たします。同時に、魚類、甲殻類、鳥類にとって不可欠な生息地を提供します。

カンパ金の半分はAPLAへ、半分はATPIに届けられます。



APLA
農を軸に地域の自立をめざすアジアの人々が出会い、経験を分かち合うことを目的に活動する日本のNPO法人。民衆交易でつながるアジアの人々の支援活動をしている。

ATPI
オルター・トレード・フィリピン社。バナナやマスコバド糖の民衆交易を担っている。ネグロスの小規模な農民たちが自立し、持続可能な生活ができるよう支援している。

互恵のためのアジア民衆基金
バナナやエコシュリンプを利用することでも支援できます

バナナとエコシュリンプを利用された際、商品代とは別に「互恵のためのアジア民衆基金(APF)」をお預かりしています。この基金は、経済的な自立をめざすアジア各地の団体に低金利で融資されています。アジアの地域でお互いに支え合い連帯するための仕組みです。

今後の支援予定　APLA

パレスチナへの支援

ヨルダン川西岸地区のオリーブの生産地では、2023年10月以降、イスラエルによる暴力が過去にないほど激化し、オリーブ生産者は命を脅かされる状況の中で生活しています。

生産者は「土地を守って、ここで踏ん張って生きていくことこそが自分たちの抵抗だ」と言います。昨年は、在来の種子を保存する施設がイスラエル軍によって破壊されてしまいました。現地から、「種子を守る取り組みを再度スタートさせたい。そのために必要な専用の機械の購入をお願いしたい」と、要請が届きました。今後、カンパ金を活用し、在来の種子を守る取り組みを支えていきます。

現地で支援に携わる方から話を聞きました

一緒に向き合ってくれる仲間がいる

NPO法人APLA 事務局長　野川 未央さん

ｆｒｏｍネグロス・クリスマスカンパが始まって30年以上が経ちます。若者の学びの場の提供や環境保全活動、生産者の支援など、内容も充実し、フィリピン以外のアジアでの連帯も広がってきました。現地の方たちと話すと、「一緒に向き合ってくれる仲間が海の向こうにいることは、本当にありがたい」という声をよく聞きます。このようなカンパが30年以上も続いていることは、あたりまえのことではないと、誰もが理解しています。

この2～3年は、どの地域でも気候危機の影響が深刻になっています。東ティモールのコーヒー産地では、雨季と乾季のバランスが崩れ、生育から乾燥までがうまくいかないこともあります。コーヒー生産者が暮らす山間部の農村には、水道もガスもありません。命綱である水源を守るため、地下水が循環するよう木を植える取り組みを一緒に進めているところです。

長年積み上げてきた信頼やつながりは、世代が変わっていく中でもしっかりと引き継がれています。これからも、現地の方々と一緒に考え、乗り越えられるよう、連帯を深めていきます。

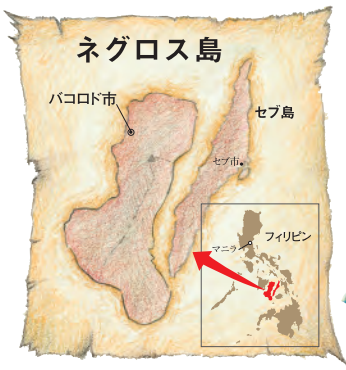
連帯が尊厳と生きる勇気につながる

グリーンコープ共同体 顧問　大橋 成子さん

グリーンコープとネグロスの絆は40年近く続いてきました。飢餓に陥ったネグロスを組合員が訪問し、そこで「紙袋のように軽い」と感じた子どもたちを抱いた日から連帯は始まりました。当時、多くの支援団体がカンパ金の使途を限定する中、グリーンコープは「連帯は無条件」を貫き、現地で必要不可欠な場面でカンパが活用されました。以来、生きるための農業や子孫のための土地獲得など、厳しい状況の中でもネグロスの人々は尊厳とあきらめない心を持つことができ、自立への模索は「民衆交易」へとつながりました。

農民たちの夢が詰まったバナナやマスコバド糖を手にした組合員たちは、ネグロスに思いを馳せ、それがクリスマスキャンペーンを継続する力となりました。組合員の運動から事業が生まれ、事業の成功によって新たな運動を展開していきました。

ネグロスにおいても、単なる商品の取引先ではない民衆事業体ATPIを、グリーンコープは設立時から支援しています。こうして「民衆交易」はモノの流通ではない人間の連帯をつくってきたのです。青少年や組合員の現地交流は、顔の見える連帯としてさらに豊かに広がっています。



第22回 青少年ネグロス体験ツアー 7月20日～26日

大切なものに気づいた ネグロスでの体験

グリーンコープでは、フィリピン・ネグロスとの共生・連帯の取り組みの一環として、「青少年ネグロス体験ツアー」を行っています。

今回、コロナ禍を経て8年ぶりに再開。各会員生協のふくおか・くまもと・かごしま・みやざきから、12人が参加しました。ツアーを通して、日本とネグロスの子どもたちがお互いの国や文化の違いを理解し合い、友情を育みました。

参加した子どもたちの感想を伝えます。



青少年ネグロス体験ツアー

高校生たちがネグロスでの体験を通して、グリーンコープの基本理念である「四つの共生※」について学び、さらに自らの人生観や国際性を養うことを目的に、1991年から開催している。

※「自然と人」「人と人」「女と男」「南と北」の共生。

ツアー日程

日	スケジュール
20日	福岡→マニラ→バコロド
21日	カネシゲファームにてオリエンテーション ワークショップ
22日	カネシゲファームでワークショップ／農業体験 ラサール大セミナーハウス到着
23日	ラサール大セミナーハウスでワークショップ パフォーマンス準備
24日	グラナダ高校でパフォーマンス／プール遊び フェアウェルパーティー
25日	ネグロスユースとお別れ バコロド市内観光・ショッピング
26日	バコロド→マニラ→福岡

キリスト教徒が多いネグロスでは、お祈りをしてから食事をすることを知りました。





お別れのパーティーでは、仮装した姿を披露しました。



帰国前日、一人ずつお別れのあいさつをしました。

ネグロスユースとの交流で感じたこと



グリーンコープかごしま生協
小山田 眞子さん（17歳）

このツアーに参加するまで、フィリピンはバナナの産地というイメージくらいしかなく、そこにどんな人が住んでいるか想像したこともありませんでした。

ネグロスユース（ネグロスの若者）たちは農業をする家族の姿を身近に見て育っているため、生まれ変わったらなりたいものとして、家族を助けられる水牛や牛、木陰を作る木などを挙げていました。一方、日本の私たちは、自由に自分のペースで生きたい、という意見が多かったです。私にとって牛は農業を「手伝わせているもの」でしたが、彼らにとっては「手伝ってくれるもの」なんだという違いは心に残るものでした。当たり前ながら、同じ年齢でも生活する環境によって大切にするものは違い、物事に対する捉え方も変わってくることを知りました。

それでも、スマートフォンが好きだったり、蚊やハエが嫌いだったり、おしゃれに時間をかけたりする姿は、私たちと変わりませんでした。彼らの中にも恥ずかしがり屋な人もいるし、失敗しても落ち込む人もいるし、そんな人を励ましたり勇気づける人もいて、国が違うと性格も違ってくると思っていたけど、そうではないのだなと感じました。言語や食文化などの違いがあっても、英語を用いて共通の話題で盛り上がることができました。

いろいろな背景があっても仲良くなれると実感できた交流でした。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。



小山田さん（左）とネグロスユース。

ネグロスの人々のやさしさに接し家族の大切さを改めて感じた

グリーンコープ生協ふくおか　**大森 雅紀さん（16歳）**

母の言葉がきっかけで参加した今回のツアーは、私に大切なことを教えてくれました。慣れない環境や文化の中で不安なときもありましたが、現地の皆さんと交流し、伝えたいことをしっかり言葉にする大切さを学びました。今までは自分の気持ちをうまく伝えることが苦手でしたが、気持ちを素直に表現しようとする彼らの姿を見て、私も思ったことをもっと伝えたいと感じました。

また、言葉が通じない中でも私を助けようと努力するネグロスの人々の優しさを感じ、自分を支えてくれる家族や友達の存在が決して当たり前ではないこと、そして今の暮らしのありがたさを改めて実感しました。



ダンスや絵画、キリスト教の文化に触れるなど、苦手なことや新しい世界に踏み出すことも面白いと思いました。これからはもっと他の地域で、新たな文化や言葉に触れてみたいです。そして日本に帰ってきてからは、次は自分が誰かを助けられるようになりたいと考えています。

ネグロスで出会った人々の言葉、誰かを想う優しさは、これからも悩んだときに心の支えとなるでしょう。このかけがえのない学びと成長の機会を与えて下さったツアー関係者の皆さん、そして今まで背中を押してくれた家族に心から感謝しています。

ツアーに同行した大橋さんに聞きました

子どもたちの成長に心を動かされました



グリーンコープ共同体
顧問 **大橋 成子さん**

1991～94年㈱オルター・トレード・ジャパン(ATJ)で「バナナ村自立開発5ヵ年計画」を担当。1994～2007年日本ネグロス・キャンペーン委員会(JCNC)ネグロス駐在員。2008～12年APLAネグロス駐在員。2017年～グリーンコープ共同体顧問。「青少年ネグロス体験ツアー」では現地と日本の子どもたちを、案内役として長年見守っている。

8年ぶりにツアーを再開しました。コロナ禍やSNSの普及など子どもたちを取り巻く環境は変化し、人との関わり方が変わっています。今の子どもたちがツアーを通して何を感じるか、不安もありました。しかし、組合員が事前に下見を行うなど丁寧に準備を重ねたことで、今回のツアーは子どもたちに素晴らしい経験をもたらしました。

現地での、アリが這いハエが飛ぶ中での屋外の食事や、冷水しか出ないシャワーなど、不便な生活の体験を通して、子どもたちは「これまでの当たり前が、当たり前ではない」という大切な気づきを得ました。また、ネグロスの友人たちとの交流を通して、家族への愛や感謝の気持ちに気づかされたようです。

子どもたちは同年代の国境を越えた友人から学び、感動し、たくましく成長しました。時代は変わっても、子どもたちの根っこにあるものは変わらないのだ、と深く胸を打たれた取り組みでした。

2027 カーボンニュートラル vol.23



みんなの力で　カーボンニュートラルを実現しよう

2027カーボンニュートラル大集会

2027カーボンニュートラル大集会

日　時　8月29日
会　場　福岡国際会議場
参加者　６５０人
（会場参加３９９人　オンライン参加２５１人）

グリーンコープは、急速に進む地球温暖化に対し、今私たちができることとして、「2027カーボンニュートラル」に取り組むことを確認し、組合員・ワーカーズ・職員が力を合わせてさまざまな取り組みを進めています。

8月29日、「2027カーボンニュートラル大集会」を開催し、これまでの取り組みを振り返り、現在の到達点と課題を確認しました。そして、「2027カーボンニュートラル」の取り組みを通じて、組合員の拡大や利用の増加、事業の発展につなげようと、思いを一つにしました。

※1 グリーンコープが事業で排出するCO₂（Scope1：自社における実質排出と、Scope2：自社が購入・使用した電力、熱、蒸気などのエネルギー起源の間接排出）を2027年度までに実質ゼロにする取り組み。

猛暑や大雨がもたらす深刻な影響

開会の挨拶でグリーンコープ共同体代表理事の日高容子さんは、今年の猛暑や大雨による水害、農業への影響は深刻で、人々の生命に関わる問題であるとし、「2027年度末まであと1年半、組合員・ワーカーズ・職員が一体となり『2027カーボンニュートラル』の実現に向けて取り組みましょう」と呼びかけました。

青果生産者の会副会長の柴田周作さんは、この夏の猛暑によって野菜の生産が困難になっており、気候変動が他人事ではなくなったとし、「グリーンコープの生産者は、化学肥料や農薬の使用を減らし、有機の堆肥を使うことで、温室効果ガスを削減・抑制しています。これはカーボンニュートラルにつながると思います」と述べました。

グリーンコープはカーボンニュートラルの希望

集会では「2027カーボンニュートラル」の中間総括と達成に向けたロードマップの他、組合員活動、配送の現場やお店での取り組みの報告がありました。

また、グリーンコープのEV充電マネジメントをサポートするアークエル㈱の宮脇良二さんを講師に、カーボンニュートラルをめぐる世界の現状やCO_2削減の先進的な取り組みについて学びました。

終わりの挨拶では、グリーンコープ生協おおさか理事長の辻中仁美さんが、「グリーンコープでは商品を利用するだけでカーボンニュートラルに参加できます。望む未来をつくるのは、私たち消費者です。買い物などの行動すべてが未来につながっています。一人でも多くの仲間を増やして、脱炭素社会を目指し、皆さん一緒に頑張りましょう」と力強く締めくくりました。

「2027カーボンニュートラル」これまでの成果と実現までのロードマップ

取り組み開始から現時点までの成果のまとめと、2027年度末のCO_2排出ゼロ達成に向けた、今後のロードマップについて報告しました。

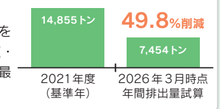
「2027カーボンニュートラル」進捗状況

CO_2排出量削減の基準となる、取り組み開始前の2021年度のCO_2排出量は、1万4,855トンでした（国際基準に基づく第三者保証ISAE3000/3410を取得）。

2026年３月時点の試算では、CO_2年間排出量が7,454トンとなりました。2021年度から7,401トンを削減し、49.8%のCO_2削減を達成したことになります。

カーボンニュートラルの達成に向けて、CO_2排出量の削減策を尽くしても、268トンのCO_2を排出してしまいます。CO_2の吸収・固定の取り組みと、※2カーボンクレジットなどを利用することで、最終的にCO_2排出量ゼロを実現する予定です。

事業におけるCO_2排出量

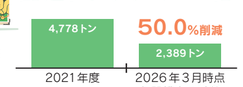




CO_2排出量削減の3つの柱



配送トラックのEV化

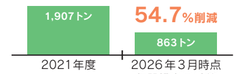


配送トラック440台のEV化を達成

今後のアクション
- 全車両1214台（配送トラックを含む）のうち、1200台をEV化。車両からのCO_2排出量を40トンまで削減。
- 使用中のガソリン車両90台を、ＥＶに改造。
- 経路充電を運行に組み込み、休憩等との同時充電で電欠を防ぎ、長距離配送を実現する。
- 使用後５年経過したバッテリーを蓄電池として再利用。



ドライアイス削減



商品輸送中のドライアイス使用を削減

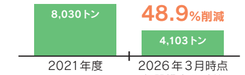
高性能断熱容器と循環型蓄冷材を全拠点に導入。

今後のアクション
- 留守宅用ドライアイスの大幅削減を目指す。

冷凍商品の配達に不可欠なドライアイスはCO_2の塊であり、気化する際にCO_2を排出します。



グリーンコープでんき



発電時にCO_2を排出しないグリーンコープでんきに切り替え

今後のアクション
- 全拠点・店舗で非化石証書を活用して、電力由来のCO_2排出を完全ゼロに。
- 事業所の屋根を活用した自家消費型太陽光発電を推進。

残る268トン

- 留守宅用ドライアイス191トン
- 車両燃料40トン
- ガス37トン

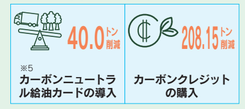
↓

CO_2排出量ゼロへ

自然の力によるCO_2の吸収・固定



新しい仕組み



※2 温室効果ガスの削減量や吸収量をクレジットとして認証し、他社と取引できるようにした仕組み。
※3 再エネ等で発電された電気の環境価値を証書化したもの。グリーンコープでんきは非化石電源にこの証書を組み合わせ、実質的にCO_2排出量ゼロを実現。
※4 水田を干して土壌を乾燥させる「中干し」の期間を長くすることで、メタン発生量を削減することができる。
※5 給油の際に、排出するCO_2をカーボンクレジットでオフセットすることができる法人向け給油カード。

組合員から

マングローブ植林の取り組み

グリーンコープ生協ひろしま 理事長 前津宗八州恵さん
グリーンコープ生協くまもと 理事長 小林香織さん

2025年２月、インドネシアのエコシュリンプ養殖池でマングローブを植林しました。エコシュリンプの養殖を守りカーボンニュートラルを推進するため、今後もマングローブ植林を積極的に行います。

漆の木植栽の取り組み

グリーンコープ共同体 代表理事　日高容子さん
グリーンコープ生協ふくおか 理事長 坂本寛子さん

福島第一原発事故により放射能に汚染された福島県の里山に、漆の木を植栽しました。漆の木の植栽は、CO_2吸収によるカーボンニュートラルへの貢献だけではなく、原発事故からの地域再生につながる重要な活動だと考えています。

商品利用代金の1％拠出に向けた取り組み

「２０２７カーボンニュートラル」実現に向けて、組合員による商品代金の１％の拠出に、各会員生協で取り組んでいます。
（拠出の方法は生協によって異なります。）

グリーンコープ生協ふくおか

中部地域理事長　中村晶子さん
南地域理事長　永井洋子さん

1％拠出について意向確認書を提出してもらっています。約３分の１の組合員が未提出だったため、取り組みの意義を紹介したチラシと確認書を全組合員に配布して呼びかけました。さらに、支部やお店のまつりなどに出向き、クイズやゲームで地球温暖化や脱炭素への関心を持ってもらい、拠出につなげました。

グリーンコープ生協くまもと

東地域理事長　株元知子さん
西地域理事長　森田弓沙さん

取り組みについてのチラシを同意・不同意書と一緒に全組合員に配布し、電話でも丁寧に伝えました。本部や地域のまつりで取り組みを周知・アピールしたり、紙芝居を作り地域組合員総会で披露したりしました。ＥＶトラックには組合員が制作したカーボンニュートラルのポスターを貼付けて、アピールしました。

配送の現場から

※6「２０２７カーボンニュートラル」実現に向けて、同意した組合員が商品利用代金の１％を拠出する取り組み。

グリーンコープ生協（長崎）

ワーカーズ常勤理事会代表　岩永純朋さん

１％拠出については、新規加入者の拠出同意率80%を目指して取り組んでいます。また、佐世保センターのワーカーは、エコドライブを心がけています。

グリーンコープ生協ふくおか

小倉北支部（当時）　古賀友隆さん

配達する際に、組合員に環境の話を分かりやすく伝えることで、取り組みを理解してもらい、商品の注文や１％拠出同意につながりました。ＥＶトラックが会話のきっかけとなり、加入する方も増えました。

お店から

お店ワーカーズ連合みなみ

業務責任者　中尾朱海さん

店内ポスターやチラシ、声かけで１％拠出をお願いしています。一部の店舗のキッチン設備をＩＨへ切り替え、夏場の暑さが軽減して作業効率も上がりました。

くまもと企業組合ワーカーズマミー

理事長　石坂いづみさん

桜木店は、屋根に太陽光パネルを設置して店内で使う電気を自家発電する、環境に配慮した店舗です。桜木店と長嶺店は、使用電力をグリーンコープでんきに切り替えました。

講演　カーボンニュートラルの現在地と我々一人ひとりにできること



宮脇 良二さん
アークエル株式会社
代表取締役 CEO

「デジタルイノベーションで脱炭素化社会を実現する」ことを目的に掲げ、事業を展開している。

カーボンニュートラルの現在地

地球温暖化による気候危機を受けて、2015年のCOP21でパリ協定が採択され、温室効果ガスを削減していくことが合意されました。多くの国や地域が2050年の温室効果ガス実質ゼロを掲げて取り組みを進めています。

現在世界で最もカーボンニュートラルが進んでいるのは中国で、太陽光発電やEVなどカーボンニュートラルの技術がかなり普及しています。EUでは、CO_2排出量に応じた金銭的な負担を企業に求める排出量取引や、EU外からの輸入製品にEU内と同等の炭素価格を課す「炭素国境調整措置」を進め、カーボンニュートラルと経済の両立を目指しています。

日本では、GX（グリーントランスフォーメーション）を実現すべく、今後10年間で150兆円超の投資をしていくことを、２０５年に政府が閣議決定しました。しかし、未だ化石燃料への依存は続いており、2030年度の排出削減量は2013年度比で31～37%と、目標である46%を下回る見通しです。

カーボンニュートラルを進めるには、経済的に成り立つことが重要です。日本でも排出量取引の制度を普及させて環境と経済の両立を目指すことで、カーボンニュートラルを前進させることができると考えています。

※1 国連気候変動枠組条約第21回締約国会議で採択され、2020年以降の地球温暖化対策を定めた国際的な枠組み。
※2 炭素排出に金銭的な価値を設定し、排出者にコストを意識させて排出の抑制を促す仕組み。
※3 化石燃料中心の産業・社会からCO₂を排出しないクリーンエネルギー中心に転換するための、経済・社会のシステムの変革を目指すこと。
※4 パリ協定では、全ての締約国が温室効果ガスの排出削減目標を「国が決定する貢献」として5年毎に提出・更新する義務がある。

現状維持の取り組みから環境を再生する取り組みへ

私たちは長年、「サステナブル（持続可能）」な視点で「環境負荷を減らし、現状を維持すること」に取り組んできました。しかし、「現状維持」では、気候危機に対応できません。そこで「環境をより良い状態へ再生する」という「リジェネラティブ」の概念が、「サステナブル」の先をいく概念として注目されています。

例えば農業の分野では、グリーンコープでも取り組まれる、バイオ炭を土壌に入れて炭素を閉じ込めて大気中への放出を減らす「炭素貯留」や、土壌の健康や生物多様性を修復しながら栽培する「リジェネラティブ農法」などが盛んになってきています。

※5 木材やもみ殻などを材料とした、生物の活性化及び環境の改善に効果のある炭化物のこと。

暮らしの中の選択が社会を変えていく

カーボンニュートラルの実現に向けてまず取り組むべきことは、ガソリン車からEVに、ガスからIHに変えるなど、消費電力や消費エネルギーを化石燃料から電気に変えることです。さらに、高効率の機器に替えることで、省エネができます。また、電気は昼間に利用することで、太陽光などの再生可能エネルギーを有効活用できます。

また、私たちの暮らしの中でも、必要な物を必要なだけ買い長く使う、4Rを意識する、環境や生産者に配慮した商品・電気・サービスを選ぶ、家族や友人とモノをの選択を変えるなど、前向きな方法で取り組んでいくことが大切です。

環境や暮らしについて話すなど、小さな選択の連続が社会を変えることにつながります。

アメリカで地産地消運動を起こしたアリス・ウォーターズは、「どう食べるかが、人と社会をつくる」と言っています。私たちが「リジェネラティブ」な方法で作られた食べものを選ぶことは、次世代の命や地域の豊かさを守り、健全な地球に戻すことにもつながります。共に取り組み、より良い社会にしていきましょう。

※6 太陽光発電の普及により、晴れた日の昼など発電量が消費量を上回り、発電量が抑制されている状況がある。

参加者からの質問

Q 牛のゲップによるメタンの排出を減らすため、牛乳や牛肉を控えた方がよいのでしょうか。

A 食べたいものを我慢するというような方法では、カーボンニュートラルはなかなか進みません。例えば、CO_2排出量を抑えられる輸送距離が短い地産地消の食べものを選ぶなど、前向きな方法で取り組んでいくことが大切です。

Q 蓄電池はCO_2削減に有効ですか。

A 社会全体で余っている再生可能エネルギーを蓄電池に貯めて使うことができれば、非常に有効だと思います。

子どもたちの棘のために　No.219

原発は環境にやさしいと言えるのか

脱炭素電源のひとつとして原発が推進され、地球温暖化対策の切り札のように語られている。しかし、原発は本当に環境にやさしいと言えるだろうか。

原発は稼働中、原子炉を冷却する必要がある。一次冷却水は真水だが、それを冷やすための二次冷却水に大量の海水が使われ、使用後は温排水となって海に戻される。この温排水は周辺の海水温を上昇させ、地域の海洋生態系に影響を与え続ける。

さらに、高レベル放射性廃棄物は放射能レベルが下がるまで数万年から10万年の間、地下深く隔離し続けねばならないと言われている。その途方もなく長い年月、安全に管理し続けることができるだろうか。

最大の問題は、ひとたび重大事故が起きた時の代償だ。土地や海が長期間にわたり汚染され、人々の暮らしも一瞬で奪われる。

「脱炭素」の目的は地球温暖化をとめ、生態系と人間の生活環境を守ることだ。しかし、原発という手段によって目的そのものが損なわれる矛盾を感じる。

グリーンコープ共同体組織委員会

原発のない未来をつくろう　ひろがれ！私たちの発電所

（一社）グリーンコープでんき

2026年8月の売電量

神在太陽光発電所 134,160kWh（定格出力1,057kW（309世帯相当））	若宮物流センター太陽光発電所 5,740kWh（定格出力47kW（14世帯相当））
平池水上太陽光発電所 163,740kWh（定格出力1,260kW（368世帯相当））	広島物流センター太陽光発電所 5,666kWh（定格出力47kW（14世帯相当））
深年太陽光発電所 176,763kWh（定格出力1,550kW（453世帯相当））	グリーンコープやまぐち生協西部地域本部太陽光発電所 5,820kWh（定格出力54kW（16世帯相当））
※オンサイトＰＰＡ太陽光発電所 106,493kWh（定格出力795kW（232世帯相当））	グリーン未来ソーラー 47,155kWh（定格出力376kW（110世帯相当））

※グリーンコープ関連の事業所屋根上に設置した太陽光発電設備で発電した電気を、送配電網を通さずに直接その施設で利用しています。

組合員の出資金で原発フリーの電気をつくります
「原発の電気ではなく、自然エネルギーでつくった電気を使いたい」という願いを、私たちの力で実現させましょう。
グリーンコープ・グリーン電力出資金
10,573人　1,085,851,000円（2026年9月25日現在）

残留放射能検査結果 (186)

2026年9月に224品目の検査をしました（一部9月以前の測定分を含む）。すべて検出限界値未満でした。

最新の放射能検査結果は、ホームページ「放射能検査の取り組み」でご覧ください。
https://www.greencoop.or.jp/radiation/

子ども・若者支援の輪が広がっています

2026年度 福祉拡大学習会

2026年7月15日
福岡市の会場とオンラインで開催
社福福祉委員会 主催
163人（オンライン含む）参加

様々な要因で親や家族を頼れず、厳しい社会状況の中で生きづらさや困難を抱えている子どもや若者がいます。

そのような現状を何とかしたいと、社会福祉法人グリーンコープ（以下、社福）は、特定非営利活動法人おおいた子ども支援ネットと共に、「九州若者サポートネットワーク（以下、9sapo）」を、2023年に設立しました。

設立から3年を迎えた9sapoは、今年2月に事業報告会を開催し、これまでの歩みを振り返りました。また7月には、社福福祉委員会が、9sapo事務局長であり、おおいた子ども支援ネット理事長の矢野茂生さんを講師に迎えて、福祉拡大学習会を開催しました。

九州若者サポートネットワーク（9sapo）とは

子ども・若者の居場所の運営、※ケアリーバーの伴走支援、若者の社会参加や就労支援に取り組む九州・沖縄の支援団体を応援する民間ネットワーク。「九州若者おうえん基金」を設けて支援団体に助成を行っています。

グリーンコープの「子ども・若者支援カンパ」をはじめ、様々な企業から寄付が寄せられ、2023年からの3年間で、のべ16団体に助成しています。

※児童養護施設や里親家庭などの社会的養護の保護（ケア）を離れ（リーバー）、社会に出た若者。

講演　子ども・若者支援と市民活動って両想い♡



矢野 茂生（しげお）さん
特定非営利活動法人おおいた子ども支援ネット 理事長
九州若者サポートネットワーク事務局長

頼れる大人がいない中で自立を迫られる若者たち

僕は大学卒業後、教員経験を経て、児童自立支援施設で働くようになり、そこで多くの「非行少年少女」たちと出会いました。外から見える彼らの姿は「非行」ですが、その背景には、幼い頃に虐待を受けるなどの経験があることが多く、施設を巣立った後も困難に見舞われ、中には自殺に至る若者もいました。そのことをきっかけに、子どもや若者に寄り添って長く支援できる仕組みが必要だと実感し、「おおいた子ども支援ネット」を立ち上げました。

彼らのライフコースを川の流れに例えると（図1）、下流には様々な公的支援の仕組みや制度がありますが、それぞれの制度が縦割りに分断されていて、制度だけでは彼らを支え切ることはできません。さらに18歳を超えた途端、児童福祉などの公的支援も受けることができなくなります。

児童養護施設や里親の元で養育された若者たちの現状を見ると、大学進学率は以前より高くなりましたが、それでも一般家庭の半分以下です。多くの若者が高校卒業後に就職しますが、非正規就労が多く、2人に1人が3年以内に離職。生活保護の受給率が同世代の18倍という調査結果もあります。頼れる親や家族がいない若者たちにとって、18歳で放り出される社会は、「戦場のようだ」と、彼らは言います。

※1 こども家庭庁支援局「社会的養育の推進に向けて」より
※2 東京都福祉保健局「東京都における児童養護施設等退所者の実態調査」

「ひとりぼっちになれない社会」をめざす

僕が出会ってきた若者たちに共通するキーワードは「ひとりぼっち」です。社会の変化に伴って、これまで受け皿となっていた「血縁」「地縁」「社縁」が薄くなっていると感じます。困ったら誰かを頼ればいいと言われますが、人を頼るには勇気が必要です。勇気をもって頼ってみたけれど難しかった経験を重ねると、もう頼りたくなくなりますよね。ですから僕は、若者に人を頼れと言うのではなく、「ひとりぼっちになれない社会」、つまり、地域のつながりで共同体をつくり、若者を支えていきたいと考えたのです。

地域みんなで育て合い・育ち合い

「おおいた子ども支援ネット」では、今新しい街づくりに取り組んでいます。その最初の事業として、今年の3月30日、大分市内に「だんのはるオーガニックケアガーデン（以下、ケアガーデン）」を開所しました。

ケアガーデンがあるのは高齢の単身世帯が多い地域です。大分大学に隣接しているので大学生も多く住んでいますが、地域の方々と学生たちは疎遠な関係でした。その地域に、「おおいた子ども支援ネット」のサービスを利用する子どもや若者が加わることになりました。

地域の皆さんも参加してイベントを開催したり、庭の畑では地域のおじいちゃんと子どもたちが農作業を楽しむなど、ケアガーデンを真ん中に様々な出会いやつながりが生まれ広がっています。地域の様々な人たちが有機的につながって手を重ねながら、みんなが育ち合っていく場所にしていきたいと考えています。

だんのはるオーガニックケアガーデン

施設を利用する子どもや若者と、地域の住民や学生たちが、ゆるやかにつながり支え合う関係性が生まれています。



地域にあった修道院と、隣接する民家を改修工事し、活用している。



3年前、僕がグリーンコープの皆さんに声をかけ、皆さんが応じてくれたことで、9sapoが誕生しました。僕たちのような支援団体と、「おせっかい」の気持ちを持った様々な立場の方々が、できることとできないことを持ち寄り、「協力」することで、若者たちが抱える様々な問題の解決に向けて、何とかしていきたいと考えています。大事なのは一緒になって考えていくこと。これからも、「協力」の輪を広げていきましょう。

「おせっかい」が社会を動かす

若者たちを支えるために必要なのは、彼らのライフコースの上流に応援する仕組みをつくることです。上流には地域のコミュニティがあります。そこには「若者たちを何とかしたい」という気持ちを持った人たちがいるはずです。この「何とかしたい」という気持ちのことを、僕は「おせっかい」と呼んでいます。「おせっかい」が集まれば、社会を動かすこともできるのではないでしょうか。

ワークショップ　わたしの若いころ、救われた『おせっかい』記憶掘り起しワーク





みるみるうちに模造紙が言葉で埋まっていきました。

矢野茂生さんの講演後、参加者は、会場とオンラインそれぞれでグループに分かれ、ワークショップに取り組みました。

参加者は、「若い頃にうれしかった大人との関わり」「助けられた一言」「しんどかった関わり」について、自身の記憶を掘り起こし、付箋紙に書き出していきました。

付箋紙に書かれた言葉を全員で共有する中で、自分が若者の立場だったら大人からどんな言葉をかけてもらいたいか、今の自分にできることは何か、それぞれが考えるワークショップとなりました。

九州若者サポートネットワーク（9sapo）事業報告会

2026年2月2日
福岡市の会場とオンラインで開催
九州若者サポートネットワーク 主催

9sapoの事業報告会では、設立から3年間の活動を振り返るとともに、2024年度に助成を受けて地域で活動する3つの支援団体からの実践報告と、グリーンコープからの報告を行いました。

開会あいさつ　孤立や排除をなくし共に支え合う社会へ

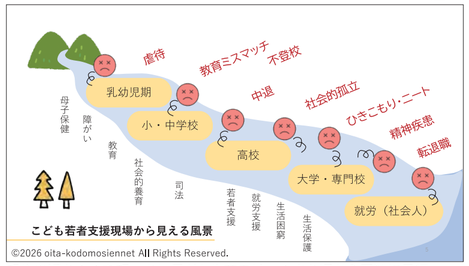
9sapo 運営委員長
大分大学 福祉健康科学部 特任教授
相澤 仁さん

「誰ひとり取り残すことない社会へ」。9sapoを立ち上げた当初から私たちが何度も立ち返ってきた原点です。活動を始めて実感しているのは、困難を抱える子どもや若者ほど、制度や支援が分断された隙間に落ちやすいということです。

9sapoを立ち上げた背景に、ケアリーバー支援や居場所支援があまりにも制度の外に置かれている現実がありました。ケアリーバー支援は、児童福祉だけ、若者支援だけなど、一つの制度では解決しません。だからこそ、制度や地域を超えて、顔が見える関係でつながることが必要です。

事業報告会は、子ども・若者を支える人たちがどのように出会い、学び合い、支え合ってきたのかを共有する場です。これから先、子どもや若者の笑顔が増えることと同時に、伴走する私たち大人が彼らと共に生き、育ち合いながら、安心して支援を続けられる社会を、皆さんと一緒にデザインしていきたいと思います。

（図1）



こども若者支援現場から見える風景

©2026 oita-kodomosiennet All Rights Reserved.

親や身近な大人を頼れない子どもや若者は、小さな頃から困難に見舞われ、うまく解決できないまま、成長とともに困りごとも増幅してしまうことが多い。

9sapoからの助成を受けて 居場所づくりなどに取り組む 3団体からの報告

熊本の子ども若者の自死0を目指して

子ども若者保健室～らしく～
藤戸 邦子さん

看護師として大学病院や国立病院に勤務する中で、自死を選んだ子どもたちが運ばれてくるという経験をたくさんしました。子どもたちに何が起こっているのか知りたいと考え、看護師の仕事を辞めて、発達障害や子どもの権利擁護などについて学び、現在の活動を始めました。

子どもや若者が助けを求めることができる、孤立しない地域社会をつくりたいと考え、介護事業所のカフェスペースや団地の集会所を借りて「子どもの居場所」を開催しています。また、不登校や発達障害があり生きづらさを抱える子どもたちが運営する居場所「親カフェ」の開催も行っています。参加者からは、「これまで気持ちを吐き出せる場所がなかった」「同じ状況の人がいて心強く、安心できた」という感想をもらいました。

子育ては親だけではできません。地域や他人の協力が必要だと感じています。



子どもの居場所では、お菓子やおもちゃなどを用意して迎えます。

誰もが安心して自分らしく生きられる場を

認定NPO法人 心澄（こころすみ）
宮本 鷹明さん

私たちは、不登校や引きこもりなど、生きづらさを抱える人々の支援を行い、孤独になる人を生まない取り組みや、孤独になった人を社会と再びつなぐ取り組みを行っています。

活動の一つに、居場所を兼ねたカフェの運営があります。当事者の子どもたちが運営の主体となり、店員として働いているので、利用する若者たちは、自分が支援される側と意識せずに過ごすことができます。

虐待を受けている子どもたちの多くが、「将来家族を持とうと思えない」、「子どもを育てる自信がない」と話します。しかし、外で一緒に食事をしていると、子どもたちは家庭で怒鳴られて怯えながら食べていた食事の時間に対する考え方が変化することがあります。

子どもたちが家族観を再構築し、自分の将来に少しでも希望を持てるようになることは、大きな変化だと思います。



市街地にあるカフェは誰でも利用することができます。

子どもたちが帰ってこられる第二の居場所を

佐賀子どもシェルターぱるーん
特定非営利活動法人 佐賀子ども支援の輪
松隈 智子さん

私たちの子どもシェルターは、虐待などによって行き場をなくした、16歳から18歳くらいの子どもたちを、自立できるまで保護する施設です。シェルターを出た後は、グループホームや自立援助ホームに行く子、一人暮らしを始める子などがいます。

活動をする中で、子どもたちが帰る「実家」となる場所がほしいと思うようになりました。そこで、第二の居場所「おむすび」の活動を始めました。

「おむすび」では、気功や陶芸教室、味噌作り体験などのイベントを開催しています。「おむすび」で、人と関わる経験を少しずつ積み重ねることによって、人を信頼できるようになる子もいます。絵を描くのが得意で個展を開いた子もいます。「おむすび」があることで、目標に向かって挑戦するなど、生きる意欲をかきたてることができたと思います。



地域の人たちが参加して気功教室が開催されています。

グリーンコープからの報告

組合員の思いが込もった若者支援の取り組みを応援します

グリーンコープ共同体 代表理事
日髙 容子さん

おおいた子ども支援ネットの矢野さんと出会い、若者の現状を学ぶ中で、若者支援の取り組みはとても大切なことだと考え、共にすすめていくことにしました。2024年にシンポジウムを開催、その後会員生協の多くが学習会を開催しました。また、助成した支援団体の視察も行いました。

これまでにカンパの呼びかけを2回行い、賛同した組合員から、約580万円が寄せられました（2026年1月現在）。今後も年に一回、カンパの呼びかけを行い、9sapoの活動を応援していきます。

カンパにご協力ください

子ども・若者支援カンパ

008 一口200円
009 一口500円

何口でも申し込めます



■共同購入申込書の申込番号の数量欄に口数をご記入ください

今週（11月2日週）チラシを配布しています

受付期間：11月9日(月)～11月20日(金)

このような活動への助成金として使われます

- ▶子ども・若者そして家族を孤立させない地域社会づくり
- ▶暮らしの保証に向けた「緊急避難（シェルター）」の活動経費
- ▶障がいなどを抱えても、その人らしく社会参加できるための就労支援　ほか

送信　グリーンコープ生協ふくおか 理事長　坂本 寛子

息子は、昨年から県外の大学に通い一人を満喫している。娘も来年は就職で県外に行くらしい。娘がきっかけでグリーンコープに加入し、託児に預けながら組合員活動を続けてきたが、私も今年度で卒業を迎える。いろんなことを学び、いろんな生産者やメーカーさんたちと交流して、たくさんの組合員とも出会った。国内をはじめ、民衆交易の場にも行くことができ、グリーンコープの広がりや人と人のつながりを実感できた。

活動を卒業したあと、何をしようか考え中。子どもが家を出るので時間に余裕はできそう。いまよりも忙しさも解消されそう。もっと自分時間ができるってことは、趣味のハンドメイドも、マラソンの練習も時間を確保できるかなぁ。新しいことにチャレンジしてもいいかも！来春に向けて準備を始めよう。

Vol.160 グリーンコープのイチオシ！



大自然の中で
丁寧に育てられた
コーヒー豆のおいしさを
堪能しませんか？

グリーンコープの民衆交易商品
東ティモールのcoffee

多くの人が愛飲しているコーヒー。その原料であるコーヒー豆を、どこで、どんな人たちが、どのように栽培しているか想像したことはありますか？

グリーンコープでは、民衆交易の商品として、東ティモール産のコーヒーを取り扱っています。農薬を使わずに栽培し、香り高く豊かな味わいのコーヒーは、20年近く組合員に愛されています。

東ティモールは、来年独立から25年を迎えます。一杯のコーヒーから見える東ティモールという国の背景や、おいしさの理由を知って、東ティモールとの民衆交易を応援しましょう。

東ティモールの人々との出会いから生まれたコーヒー

商品を共に生み出し、南（途上国）の人々が生産したものを正当な価格で取引するグリーンコープの民衆交易は、1980年代、飢餓の島となったフィリピン・ネグロス島への支援をきっかけに始まりました。南（途上国）の人々と北（先進国）の私たちが支え合う取り組みとして、アジア各地へと広がっています。

北緯25度から南緯25度までの「コーヒーベルト」と言われる地域にある東ティモールでは、人口の約4分の1がコーヒー豆の栽培をして生計を立てていました。そこに注目したグリーンコープは、それまで培ってきた民衆交易の関係を広げ、社会の基盤づくりを支援しようと、※ATJと共にコーヒー豆の取り扱いの検討を始めました。2008年、コーヒーの民衆交易の開始に伴い、グリーンコープの組合員は現地の視察を行いました。長い間植民地支配され、「安心して自分らしく暮らせる社会をつくりたい」と模索してきた東ティモールの人たちを応援したいと思いました。

ATJの現地スタッフは、高品質な豆を生産するため、出荷までの作業について生産者に様々なアドバイスを行ってきました。初めはなかなかうまくいきませんでしたが、豆の選別の大切さなどを丁寧に説明することで、徐々に品質が良くなっていきました。また、コーヒー豆がどのように加工され、商品になって販売され、飲まれているか知らない生産者にその様子を伝え、継続して支援することで、生産者のモチベーションが上がったことも、品質の向上につながりました。

※㈱オルター・トレード・ジャパン。グリーンコープをはじめとする生協や市民団体が設立した民衆交易を行う会社。

東ティモールのコーヒーができるまで



①収穫
標高1200～1400mの地域で栽培。収穫は5月～8月。完熟した実を丁寧に摘みます。

②選別
熟していない緑色の豆や虫食いの豆を取り除くなど、手作業で丁寧に選別します。



③果肉除去
豆を傷つけないように機械を一定の速さで回し、外皮を取り除きます。



④乾燥
天日干しで十分に乾燥させ、水分量が一定になるようにします。



⑤脱穀・選別・サイズ分け、計量
脱穀して生豆にし、もう一度選別して、サイズ分けを行います。





焙煎工房はこまめ屋

生豆の状態で日本へ出荷
輸送中の農薬不使用



⑥焙煎
日本で焙煎します。一部の商品が「焙煎工房はこまめ屋」で焙煎されています。

東ティモールのコーヒーの特徴

朝晩の寒暖差が大きく、雨季と乾季がはっきりしている東ティモールの気候は、豆のうまみをギュッと凝縮します。豆は植民地時代に持ち込まれたアラビカ種とロブスタ種の自然交配による突然変異種「ハイブリッドティモール」が主流です。しっかりとした苦味と、ほのかな甘みが残る日本人に好まれる風味。まだ日本での流通は少なく、貴重なコーヒー豆です。

カタログGREEN35号～38号で注文できます！

35号（11/2週配布）



東ティモールブレンドコーヒー
カフェ・ファミリオ（粉）150g
クリアで、マイルド且つさっぱりした日本人に親しみやすいコーヒー。厚みのある香り、苦みとほどよい酸味、甘みが特徴。



東ティモールブレンドコーヒー
ドリップバッグ 64g（8g×8袋）
東ティモールブレンドコーヒー　オリジナルブレンド（粉）200gのドリップバッグタイプ。

36号（11/9週配布）



東ティモールブレンドコーヒー
オリジナルブレンド（粉）200g
柔らかな酸味と軽やかな飲み口が感じられる爽やかなブレンド。

37号（11/16週配布）



はこまめ屋自家焙煎珈琲
東ティモール（豆）180g
フローラルな香り。心地よい酸味と苦みのバランスが絶妙。
※お届けは38号週（12/7～12/11）です。



東ティモールブレンドコーヒー
マイルドブレンド（粉）200g
東ティモールコーヒーの本来の良さを意識しつつ、マイルドな味わいと香りが感じられるコーヒー。

38号（11/23週配布）



東ティモールブレンドコーヒー
カフェ・ナチュール（粉）150g
豊かな香り、バランスの良い甘みと苦味とコク、程よい酸味が余韻として楽しめます。有機珈琲ナチュラレッサをブレンド。

東ティモール民主共和国

インドネシア東部に位置するティモール島の東部にあり、人口は約140万人。ポルトガルの統治とインドネシアによる占領を経て、2002年に主権を回復しました。21世紀最初に誕生した、アジアで一番新しい国です。国家財政は石油・天然ガスの収入に大きく依存しており、その脱却を目指して農業や観光など多様な分野の基盤づくりが進められていますが、貧困や社会基盤の未整備は依然として多くの地域で課題となっています。

2026年8月のみんなのアクション

地球の未来を守るのは
あなたの1アクションから！

OUR GREEN

2027年までにCO₂排出0（ゼロ）へ
国産のものを食べる、容器などを返す。こんな簡単な1アクションが、地球を守る大きなアクションになります。

地球温暖化ストップのためにグリーンコープが拠出します
1pocoにつき5円、リユースびんの利用1本につき5円、モウルドパック利用1パックに5円、リサイクルされるトレーなど1kgに5円

poco 国産のものを食べる
2026年8月の実績
5,933,053.7 poco
1pocoは100gのCO₂削減に相当
CO₂削減量 593トン
29,665,269円

＋

2026年8月の実績

びんの利用数		モウルドパック利用数
牛乳びん	リユースびん	モウルドパック
444,987本	220,868本	722,384パック

CO₂削減量 47トン　6,941,195円

＋

リサイクル回収量

トレー	仕分け袋	カタログ
5,597kg	4,715kg	254,130kg

CO₂削減量 64トン　1,322,210円

＝ 37,928,674円

CO₂削減の取り組み
EV車導入　マングローブ植林　ドライアイス削減
詳しくは↓

削減できたCO₂ 約704トン
CO₂を704トン吸収するためには、杉の木約50,310本が必要です

リユース・リサイクルデータ
2026年8月分（回収率）

牛乳びん 回収率 93.7%	リユースびん 回収率 67.2%
トレー 回収率 55.0%	モウルドパック 回収率 77.3%
仕分け袋 回収率 21.2%	カタログ 回収率 58.6%

私のpocoを確認しよう！
グリーンコープアプリをダウンロードして、ホーム画面の元気くんをタップ！
アプリのダウンロードはストアから**グリーンコープ**で検索
App Store からダウンロード　Google Play で手に入れよう
動作可能バージョン：12～17.2　推奨バージョン：14　動作可能バージョン：7～15